

# 岩沼出張所つうしん

第 45 号  
平成 17 年 4 月 26 日  
仙台河川国道事務所 岩沼出張所  
岩沼市館下 1 丁目 2 - 9  
TEL 0 2 2 3 - 2 2 - 2 8 0 1



雨上がりの「一目千本桜」・白石川河畔（4月21日、船岡城址公園・樫の木付近から）

## 平成17年度 工事概要

岩沼出張所が平成17年度に発注を予定する工事について、仙台河川国道事務所の事業概要から掲載致します。

新規事業として、押分地区（岩沼市）に堤防の質的整備に予算が。また、継続事業として荒浜地区（亶理町）の築堤工事を推進させる予算が計上されました。その他、阿武隈川左岸（柴田町、岩沼市）の堤防除草、阿武隈川右岸（亶理町）の堤防除草の作業が、4月1日に請負業者に受注されました。



荒浜築堤・平成16年度150m完成、残610m

なお、重点事業について、もう少し説明を

加えます。押分地区・堤防の質的整備は、「阿武隈川左岸の岩沼地区では、過去の出水において漏水の被害が発生していることから、堤外側の堤防法尻に遮水矢板を設置することにより、基礎地盤からの漏水対策を実施し、治水安全度の向上を図ります。」本年度から工事を行い、数年間かけて、延長約4kmの堤防を丈夫にする予定です。また、荒浜地区の築堤の推進については、「阿武隈川下流右岸の荒浜地区（亶理町）においては、現況堤防の幅と高さが不足しているため、築堤により治水安全度の向上を図ります。」本年度の予算規模は、施工延長50m程度となっていますが、他の予算をかき集めて、より多くの施工延長を確保したいと考えております。

工事施工の際には、地域の皆様のご協力をお願い申し上げます。

## 川の恵み（サケの稚魚の放流）

阿武隈大堰下流右岸において、亶理町と亶理漁業協同組合主催によるサケ稚魚の放流体験が、4月13日、吉田小学校27名、高屋小学校17名、合わせて44名の5年生のみなさんが参加して行われました。

この稚魚は、角田市鳩原にある亶理漁業協同組合サケふ化場において生産された約15万尾で、「サケが生まれた川に戻る習性」を利用して、毎年実施している風物詩です。3～5年後に成長したサケが、再び阿武隈川に戻ってきて、人々に川の恵みを与えてくれることでしょう。



吉田小、高屋小5年生のみなさん

# 阿武隈川水系河川整備基本方針（第4回）

第4回目は、洪水と洪水被害軽減のための直轄による治水事業の着手、その後の大洪水に対する治水計画の変遷など、治水事業の足取りを説明しています。一般的に、計画洪水流量が大きくなる度に川幅が広くなり、堤防も高くなります。流域内の開発で川幅を広げられない場合には、増えた流量に対応するダムや遊水池等を造り、洪水の一部を一時貯め込んで、河川の水位が下がった時に、一時貯め込んだ水を河川に戻す方法で、河川の洪水を調節する計画を策定します。むずかしくなってきましたが、今回が、河川整備基本方針の根幹の部分です。

治水事業の沿革は、宮城・福島県境から上流部については、福島における計画高水流量を $3,900\text{ m}^3/\text{s}$ として大正8年から直轄事業として改修工事に着手し、福島地区、郡山地区で大規模なショートカットなどが行われた。また、県境から河口までの下流部については、岩沼における計画高水流量を $6,000\text{ m}^3/\text{s}$ とし、昭和11年から直轄事業として改修工事に着手した。

しかし、昭和16年7月に上流部において計画高水流量を上回る大洪水があり、昭和17年に福島における計画高水流量を $4,400\text{ m}^3/\text{s}$ と改訂した。さらにその後、昭和22年9月及び昭和23年9月の大洪水に鑑み、治水計画を全川にわたって再検討を行い、昭和26年に福島の計画高水流量を $4,500\text{ m}^3/\text{s}$ に、昭和28年に岩沼の計画高水流量を $6,500\text{ m}^3/\text{s}$ と改訂した。また、昭和33年9月、昭和41年6月等その後の出水並びに流域内の開発状況にかんがみ、昭和49年に基準地点岩沼において基本高水のピーク流量を $10,700\text{ m}^3/\text{s}$ とし、これをダム群により $1,500\text{ m}^3/\text{s}$ 調節して計画高水流量を $9,200\text{ m}^3/\text{s}$ とする計画とした。また、基準地点福島において基本高水のピーク流量を $7,000\text{ m}^3/\text{s}$ とし、これをダム群により $1,200\text{ m}^3/\text{s}$ 調節して、計画高水流量を $5,800\text{ m}^3/\text{s}$ とする計画とした。この計画に基づき、平成3年に七ヶ宿ダムが、平成10年に三春ダムが完成し、現在に至っている。

近年においても、計画高水位を超える大規模な洪水が相次いで発生し、戦後最大の出水を記録した昭和61年8月の台風による洪水では、死者4名、被災家屋20,216戸、浸水面積15,117haという甚大な被害を受け、支川広瀬川等では河川激甚災害対策特別緊急事業により引堤等の改修が行なわれたが、阿武隈川中上流部の完成堤防は約3割と低い整備率であった。このため、平成10年8月には、未曾有の長期間にわたる大雨により、死者11名、被災家屋2,096戸、浸水面積3,631haに達する被害が生じ、社会及び地域経済に大きな損害を与えた。中上流部ではこの洪水への対応として「平成の大改修」と称し、無堤部の築堤を中心に治水対策を実施した。しかし、阿武隈溪谷など狭窄部や集落が分散する地域等の連続堤による治水対策の困難な箇所では、平成14年7月においても浸水被害が発生し、地形特性を踏まえた治水対策が急務となっている。

## 用語解説

ショートカット：蛇行している河川の水を流れやすくするため、一部を短く、つなぎ直す行為。  
ピーク流量：流量の頂点（最大）をあらわす時刻の流量。  
基本高水：基本高水は、ダムや遊水池等、洪水調節施設がない状態の河川（自然河川）で、河川に流出すると考えられる最大の流量。計画洪水流量は、洪水調節施設（ダム等）で調節した後に、河川に流出すると考えられる最大の流量。

■あとかき■（仙台河川国道事務所のホームページ・アドレスが、変更になりました。）

「一目千本桜」のシャッターチャンス逃してしまいました。河北新報では4月19日が満開の状況と報じ、時期を逸して雨にたたられ、鮮やかなピンクが色あせた結果となりました。新年度を迎え、「気を引き締めて河川事業に当たらないと、時期を逃してしまうよ」という警告かもしれませんが、今後起こる事象に対して、適切に対処するように、自然に諭された気分です。

「岩沼出張所つうしん」はインターネットでも見られます  
仙台河川国道事務所ホームページ <http://www.thr.mlit.go.jp/sendai/index.html>